

平成28年度 第2回 昭島市民図書館協議会
会議録（要旨）

[開催日時] 平成28年9月27日（火） 18:00～19:30

[開催場所] 保健福祉センター（あいぽっく） 3階 第一会議室

[出席者]

- 1 委員：真如会長、金井副会長、美坐委員、岩田委員、矢藤委員、吉野委員、大串委員
本多委員、原委員、田副委員
- 2 事務局：山口生涯学習部長、石川市民図書館長、磯村新図書館担当課長、小澤係長
井上係長

[欠席者] なし

[議事要旨]

- 1 開会
- 2 生涯学習部長あいさつ
- 3 会長あいさつ
- 4 議題
 - (1) 平成27年度昭島市民図書館事業報告について
 - (2) 平成28年3月以降の昭島市民図書館事業の進捗状況について
 - (3) 昭島市民図書館基本方針・基本計画について
 - (4) 図書館見学ツアーの実施について
- 5 その他

[配布資料]

- 資料1 平成27年度昭島市民図書館事業報告について
- 資料2 平成28年3月以降の事業の進捗状況について
- 資料3 昭島市民図書館基本方針・基本計画について
- 資料4 図書館見学ツアーの実施について
- 資料5 子ども読書活動推進事業「中学高校生の読書フォーラム2016」
の実施報告について
- 資料6 平成28年度新1年生貸出券作成結果

資料7 第21期(後期)昭島市民図書館協議会名簿

[発言要旨]

4 議題

(1) 平成27年度昭島市民図書館事業報告について

事務局：図書館事業報告の内容説明

資料1を説明。

会長：報告をいただいたが、質問、意見はあるか。

委員：貸出冊数について。文部省の社会調査を見ると、20年度くらいから全国的に減っている。図書館によっては25%くらい減っている。そういった意味では昭島市は健闘していると思う。減っていることは、全国的な傾向としてみていいと思う。なぜ全国的に減っているのかというと、図書館が住民の方々への働きかけを整備していないから。私の教え子が2年間ニューヨークへ行った。彼女は図書館に入り浸っていた。アメリカの図書館は料理教室でケーキを作ったり、コーラスグループで歌を歌ったり太鼓を叩いたり、トランプ遊びや手品を教えてもらったりと、いろんなことが行われている。それにはサインをして申し込むと出席できる。地域の人たちとの交流ができて、とても楽しい2年間を過ごして帰って来た。日本の場合、1970年頃から「資料の提供の場」としてきて「イベントや催し物をやるのは意味がない」という考えだった。昭島市の図書館も2階に皆が使える部屋があってそれなりにやっていたが、ある時期から「意味がない」とやらなくなった。

たとえば上田市は読書クラブでコンピュータの操作、本の検索の講習会、他に手芸教室や一筆書きの絵葉書を作る教室など、みんなボランティアの方が行っている。昔その関連の会社に勤めていて、リタイアして田舎に帰って、自分はそういったことができるからと手を挙げて参加している。だから図書館はほとんどお金を必要としない。アメリカやイギリスもボランティア。私は何でもありだと言っているが、日本の場合ももっと住民の方が、バレーの発表会や、音楽の発表会、コーラスの発表会をやってもいいし、絵を描いたり、折り紙をして飛行機を飛ばそうとか、図書館でやってもいいと思う。演目のなかに歌があったらそれが載っている図書館の資料を紹介して。

これはどこの図書館でやっていたかという伊丹の図書館でやっていた。

子どもたちに読み聞かせを30分して、そのあとホールに行って演奏をする。地元のボランティアの方がやる。ピアノを聞かせたり、太鼓をたたいたり、そこで必ず本を紹介して、CDを紹介して、そうするとお母さんたちがそれを買って帰るわけ。

自分のうちに帰って聞いて、それがまた地域の話題になったりして、そうするとお母さん方が音楽に興味を持つ。そういういい循環を。

そういったことを、図書館は場所を提供して住民の方はおやりになっている。伊丹のようにそういったことをやりたいという住民の方がたくさんいる。

場所が限られるので、みんなで調整をする。図書館主宰の住民会議を一ヶ月に一回、来月はどういうふうに使いますかと、決めてやっていく。そこはルール、本のこと、情報のこと、

図書館のことを必ず紹介して。本と人を結びつけることを必ずやる。

それでまた利用者の方が、そういった講習会とかコーラス会をやるときには伊丹の場合はみんなが参加している。開かれた形でやっている。

私はそこで講演したが、最初座っていた人も後から来た人もみんな聞きにくる。そうすると人垣がワッとできてね、開かれた空間が、みんなが参加できるということが図書館のいいところ。

そういうルールをきちんと作って、図書館はどういった形にしていったらいいか、だからガーデニングとか行政の方が講演会とかいろいろやっているでしょう。ああいう人に来てもらってガーデニングとかプランターの作り方とか、季節の花をどういうふうに咲かせたらいいかとか。

お金を出すのは主催事業で年4回ぐらい。それ以外に毎週いろいろやっていただくのは市役所の方に来ていただくとか、警察の方に来ていただくとか、そういう団体の方に来ていただいてやっている。

それから、市民の方でも発表会をやりたいとか、いろいろやりたい方がいる。そういった方に来ていただき、ルールとして本のことを必ず紹介する。図書館は必ずその課題の本を入り口のところにおいて、簡単なリストを作っておく。これを繰り返しやると利用者の方が必ずいらっしゃる。

指定管理を紀伊国屋が請けている熊本の図書館が、本棚をグループ別に職員が担当して、2週間に1度小さなテーマで展示をして、それでリストを作る。そうすると6グループあるので年間100ぐらいのテーマをいろいろとね、そうすると市民の方が来られると必ず2週間に一度は本棚が変わっている。そうするとまた来ようと来館者も増える。

そういう本と人を結びつけるということを図書館がコーディネーターになって、今度新しい図書館ができるからその辺をやっていただきたいと思う。

そういうことをおやりになれば今少し減っているが、また増えてくる。

そういう手法で見ていただくほうがいいと思う。減っているから問題だとかそういうことではなくてコメントさせていただいた。

会 長：新しい図書館の見方というところで計画を作るうえで重要な話だと思う。

他にはいかがか。

委 員：団体貸し出しというのがあるが、この団体というのは、例えば自治会というところに参加しているところか。

会 長：自治会は入っているかということだが。

事 務 局：団体貸し出しについて、自治会は入ってない。学校がほとんど。

委 員：結構数が多いので、自治会という団体があるが、そういうところがまとめて借りて行って設置して紹介とかそういうことができるのかなと考えたが、どんな団体が登録されているのか。

事 務 局：他には保育園、学童クラブなど。

委 員：もともと対象はどこでもいいのか。

事務局：はい。

委員：愛知川の図書館では、ある町内会から「町内会報をみんなが読まないからもっと洒落たものにしてよ」と言われ、館長がソフトを使って写真入のカラーの美しいのを作ったら、みんながとても読むようになった。他の自治体の方々も是非うちにも作って欲しいと図書館に來られて、学ばれて、各自治体がそのようにやって、あるとき自治体の町内会報の展示会を図書館でやった。それをきちんとやってない自治体の住民の方から何でうちはやってないんだと文句があった。パブリックを紹介したというケースもあるので、町内会ももっと図書館に関心を持ってどんどん借りていただいたらいいと思う。

会長：是非、働きかけを工夫されて、誰でも団体を作れるといい。

事務局：貸し出しのほかにリサイクル本の提供などが可能であるので言っていただければ対応する。

(2) 平成28年3月以降の昭島市民図書館事業の進捗状況について

事務局：資料2・資料5・資料6を説明

会長：意見、質問はあるか。今後に繋げていただけるとありがたい。

(3) 昭島市民図書館基本方針・基本計画について

事務局：先日、加筆訂正したものを皆様に送らせていただいた。

会長 質問あれば。

委員：学習指導要領に小学校1年生から図書館の活用など、学習指導要領が変わって学び方も変わっている。調べるにしても、従来のように一人で頑張るのではなく、みんなで調べる。一つのテーマを調べる場合でも、マップなどを作ってみんなの意見を聞いて書き一人ひとりが作って調べる。みんなが知恵や意見を出しあって調べる。新しいネットワーク社会が来るので「みんなで学びあう」ということを密にしていかないと、世界の教育の流れに取り残されてしまうということで学習指導要領が改訂された。

図書館も単に静かに本を読むのではなく、小学生から大人まで是非みんなで学びあう場にならなくてはならないというのが文科省の考え。私が大学の館長をしていた頃、文科省から「学びあう場を作れ」と強力に指導があった。入口にコモンスペースを作って、先生が本を仲立ちにして語り合う空間を作れと。学校図書館にも「学びあいの場」ということで「学習センター」という新しい位置づけとして。

これからの図書館というのは、単に本を読むだけではなく、大人も子どももみんなで学びあうということが大切である。

事務局：委員のお話をいただいて、先程の議題の図書館事業の方でも「集い、集まるような場所に」というご意見をいただいた。現在の図書館というのは、スペースの問題もあるのでなかなかそれができない状況であるが、基本設計を見ていただいたらわかると思うが、集い集まれる場所が非常に多く、それこそ1クラス、1学年が集えるようなスペースは用意している。そのスペースの使い方が、理想的には、市民自らがいろんな発想で使っていただくのが一番いいと思う。ただ、昭島市民図書館はリニューアルして新しくスタートするので、なかなか

いきなりそこにはいなくても、図書館の立場としてそういうかたちに導くような協力をしていきたいと思っており、このようなかたちの目標を掲げたのでよろしくお願ひしたい。

委員：これはすごくいいと思う。特に楽しい図書館のくんだり、本と情報を仲立ちとして人と人がつながり、集いという部分がいい。これはたぶん基本理念の部分と一緒になので、全部ここで言い尽くされているのだと思う。周辺の地域と結びつくのはもちろん結構なことだが、昭島市民として、図書館はコミュニティとして誇りが持てて集まれて表現ができるといいと思う。人が集まるということは、来館者が増えると思うし、増えなくてもいい。密度が濃くなって面白くなれば黙っていても来ると思う。図書館は市民の欲求を知らなくてはいけない。その答えがここにあると思う。委員や事務局が言った内容がそこに触れている。

私はアメリカで仕事をしており、ラグナビーチにパブリックの図書館があってそこでアメリカの子どもたちと墨絵を一緒に描いている。今の事務局の話と同じで、2館ある図書館のうち1館はすごく狭い。大体20人が限度なので、どうするかというとチケットを配って、水曜日は20番まで、金曜日は何番までとして週2回ほどやっている。そうしていると大勢の子どもが集まって来て、その時に本の説明をしたり、日本のフォークロア、昔話の絵を描く。英訳された日本の民話の本を集めておいてもらい、子どもたちに見せる。そうすると非常にいい関係になる。それと同じようなことでいろんなつながりができてくるし、狭いところでもコントロールできるのではないか。その一例として、私のギャラリーが神保町にあるが、すぐそばに九段小学校があり、その子どもたちと定期的に描いている。英語の語学学校2校とも契約して墨絵を描いている。大体2時間くらい。定期的に少人数で繰り返せばやれる。だから場の問題については知恵を絞ってやればいいのではないかと。

経費の問題については、ボランティアというのは非常にいいと思う。ただ、ボランティアだと実際かかるから、最初は実費くらいにしてやったらいい。

趣味があってもなかなか皆さん出てこないから、きっかけだけ作ってあげればいい。

結論を申し上げますと、図書館は貸し本屋になっては駄目だということ。

知の楽しめる遊べる場所、そういうところのイメージ作り。だから図書館とは何ぞやという根本の問題を考え直さないと。建物ができても心が入らないと、せっかくいい物を作るんだから魂を入れないと。いいチャンスだと思うが。

事務局：新図書館を考えるにあたりこの計画案もそうだが、個人の学びの場というものも一つあるかと思う。そのなかで個人ブース、学習室、閲覧席という個の場も設けてあるし、中高生のためには中高生専用の学習室というものも2室考えている。その他にグループ学習室、さらに30名程度入れる講習研修室が3つ繋がっている。全部繋げると100人入れるので、そこで勉強も発表もしていただける。その、個の勉強からグループで成果を発表していただけるという、スタートからゴールまで昭島市の図書館で提供できたらと考えている。一つ終われば次の段階へ、スパイラルで、だんだんと皆さんの知の向上が図れると考えている。

そんなかたちの図書館を作りたい。そのための計画だと思っている。

委員：基本目標の部分だが、新たに追加された部分は具体的な活動内容を列挙しているので、基本

目標を達成するうえでは指針となる内容である。是非こういったことを実現できるように図書館員が中心となって市民に働きかけていただくと、本当に素晴らしい図書館になるだろう。今から楽しみだ。前回の協議会での委員からの話を踏まえ、事務局がきちんと文章に挙げていただいたことはとても感謝しているし、この委員になってよかったと思う。委員の意見はなかなか受け入れていただけないことが多かったが、今回に関しては新図書館ができることをきっかけにして、本当に今までと全く違ったかたちの図書館像がきちんと基本目標のなかで生まれてきているので、住民の一人として大いに期待していきたいと思っている。

会長：前回と今回の計画（案）を比べてみて、ものすごく具体的に改善なきっている。というのは委員の皆様がご意見を出し、それを事務局で整理していただいたわけである。

事務局：書いてあることは、やる目標であるので、達成に向けてどうしたらいいのかということ、メンバーで考えながらやっていききたいと思っている。

先程、図書館事業報告で個人貸出冊数の推移と登録率の話をしていただいた。全国的には登録率も下がっているような状況なので、まだ昭島はいい方だという話もいただいたが、27年度はともかくとして26年度までは貸出冊数は伸びてきている。ただ登録率が微妙に下がってきているということは、全体の市民というよりも、ヘビーユーザーというか、限られた方が使っているという結論になるかと思うので、今の図書館ももちろんだが、是非いろいろな方に使っていただきたい。新図書館は今まで来た事がない方に来ていただきたいと思っているので、いろいろなご意見を皆様からいただいているので、敷居の低い図書館にしていきたいと思っている。

委員：気になった箇所がある。基本計画（案）「はじめに」というところ。ICTという言葉が使われているが、フルスペルや意味を入れなければ分かりにくい。何箇所か出てきているので最初に入れておくといいと思う。

ICT技術の導入とあるが、ICTとはインフォメーション・コミュニティ・テクノロジーであるから、技術という言葉が二重になる。他の箇所で環境の整備という言葉が使われているので、こういったところは技術ではなくICT環境の設備という言葉にした方がいいのではないか。

会長：ここは精査していただいて、他にお気づきのことがあれば事務局に訂正していただく。

委員：漢字が適当でない箇所がある。

事務局：訂正する。

会長：基本目標について他に意見はあるか。

委員：前回、現状と課題について報告をいただいて気になったのが、移動図書館を維持していくことは厳しく、代替案を含めて検討中だということだったが、私の職場に子育て中の母親が多く、小さい子がいて本を借りたいなという人たちは、いこい公園にはかなり集まっているような印象である。基本方針を見ると高齢者のことも書いてあるが、高齢者サービスの充実のことも考えていくと、確かに老朽化や維持費の面はわかるが、行きたいけど行けないという人たちがいるという実状だけはなんとなく感じていただいて、通常使っている方々が寂しい思

いをしないような方策があればありがたいと思う。子どもが小さいと図書館までなかなか行けないので、私の妻も友人もいこい公園を利用している。市民レベルの意見として代替案が出てくるといいと思う。

事務局：新図書館は児童書を充実させるつもりでおり、どのような運用になるかわからないが託児スペースを設ける予定である。今の図書館では子どもを連れて来られなかったという方が、場所が移ることにより、もしかしたらそちらの集えるスペースも利用していただけるのではないかな。

高齢者のご意見をいただいたが、病院にももくせい号を走らせているので、そのあたりに関してはこちらで検討をさせていただく。もくせい号自体は老朽化してしまっていて、壊れてしまうと代替えがきかないのが懸案だが、いただいたご意見を含め検討する。

委員：基本方針に書かれていることは実現すればいいと思うが、もくせい号の話もそうだが、前回からの専門員を雇うための人件費、財源の確保の話だが、ベーシックなところは知らないが、最終的な予算を組むというのは議会で決められるのか。

事務局：はい。当然、市の方で案を作り、それを議会でご審議いただく。通らないと予算として組めない。そういう仕組みになっている。新図書館に関しても、いくら私どもで「これだけのお金が欲しい」と言っても他とのバランスを考えて「そこまでは付けられない」「それは付ける。それは付けない」となる。市全体の政策の一つとなるので、当然、市議会に諮るということは、市議会の方は市民の代表でいらっしゃるの、ご意見を聞きながらそこに落としどころを付けていくという方法になる。

会長：前回、職員の話が大分出た。専門性やいろいろな分野の違いの話をしていただいているので、可能なところで検討していただく。

事務局：当然、今も市で検討しているし今後も検討を進めていく。前回いろいろなご意見をいただいたが、今回は素案をまとめる状態になるので、その時に資料を提示しながらご意見をいただきたいと思っている。議論を深めていただきたいところもある。その際はきちんとした資料を用意したいと思っている。

会長：学校も常に図書室に人が欲しいと、ずっと言い続けているがなかなか進まず、ほんの少しずつ前に進んでいる状況。一気に進んで欲しいと思っている。

委員：どこの図書館でも、ある本を見たい市民に提供していく。それはとても大切なことだし、ここにもしっかり示してあるように思う。では昭島市民図書館ならではの集書、本を集めてあるか。ある分野に関してはどういう本を集めていることで特徴があるのか。そのようなところは、よく存じないまま申し上げているが、そういう特徴作りということも、本の集め方という点で基本計画に盛り込んでいくことがあっても良いのではないかという気がする。最近、神保町へ行っても気になっていることは、本の中身と値段が全く違う。非常に大変な研究努力をしたり大変な思いをしながら作った本が、以前なら大変高い値段であったものが、極めて紙屑のような値段で売られているという現実がある。そういう状況であるからこそ、ある目的を持った集書のチャンスであるように感じる。例えば童話でもいいが、それを研究

書も含め目的を持って集めていく。

昭島市民図書館に行けば、こういう本がまとめて所蔵している、というようなものを作られたらどうか。何をそうするのが適当かということは別問題だが、そういう意味では新刊書だけではなく、今の社会状況、いいものであっても売れなければ安く、紙屑同然になってしまうもので、しかしとても素晴らしいものがあるのならそれを中心にして集めていくという姿勢を持つといいと思う。自分が学生だったらたくさんの本を買っておきたい。それを手元に置いて読んでいきたいと思う本がいっぱいある。そういうことを考えると、個人としてそれをやるよりも図書館の方針として、ある分野について特色を持ったかたちで一気に集書していただく。それは美術的な価値が高い本などに限る必要はなく、むしろ市民の生活に近い本や、あるいは何か研究したいと思うときにそこへ行けばある。そういうものを特色作りとして盛り込まれたらどうか。基本方針全体のなかでそういった視点が無かったので如何かと思うが。

事務局：図書館協議会の席で、こういう本を集めたらどうか、と言った意見を賜り、参考にさせていただくと図書館も成長していけるというところがある。やはり図書館だけでやっているのが古典的になってしまうので、そういう意味で図書館協議会というものを有効に使わせていただき、一緒に成長させていただけたらいいと考えている。

委員：神保町に私の仕事場がある。私が生涯で1回だけ就職した会社が神保町の博報堂という広告会社だった。今、神保町の古本はみんな値崩れしている。出版レベルでも同じことが起こっていて、その本が売れるか売れないかの問題。私の場合、絵本なので既存の型を要求される。仕方がないからそれを条件の一つとしている。本が悲惨な状況にある。おっしゃるように、昭島市の図書館に個性を出すには、いろいろな基準があるが、私はその基準を満たしてなお、個性を作れると思う。特別ではなく、普通の生活のなかでも。たとえば花の本、図鑑が100万冊あったらどうでしょう。そこまでいくとわざとらしいが、自然を大事にする昭島市として、自然環境の本でもいい。すると、新聞の多摩版くらいには載るだろう。そういった一つの世界観を作ればいいと思う。ジャガイモの図書館とか。基準のなかで収められると思う。特殊などは、変なものを持ってきたり、超稀覯本的なものを持ってきたり、そういうことをおっしゃっているのではないと思う。あとはそれをやる創意工夫と熱意だと思う。

委員：図書館情報学の学者として、図書館会としては収集については非常にシビアである。どういうことかという、図書館のコレクションを形成する上で価値をおいてはいけない、住民のニーズを第一に考えなさいと。すると図書館の蔵書が偏る。ヘビーユーザーの方だけの図書館になってしまう。今もその通りである。

世界初の市立図書館、ボストンの市立図書館から、どういう本を集めたらいいかというレポートが出ている。そこでは、仕事と生活に根ざした専門的な本を収集することが、図書館の発展に繋がっているという考え方が出されている。日本の図書館でそのような考えを持っているところは無い。公共図書館というのは住民の生活に根ざした図書館だから、仕事と生活に根ざし、地域社会の文化や価値を体現した図書館を作ることがこれからの図書館の発展に

繋がると思っている。単にニーズを把握するというだけで、リクエストだけでなく、実際に住民と図書館員と一緒に大きな本屋に行って本を集めて、そこで意見を戦わせる。

図書館員が気が付かないことはとてもたくさんあるので市民の方々のご意見を率直に受け止め、意見を交換する。基本は仕事と生活と地域に根ざした図書館のコレクションを形成するという事だと思ふ。専門的な本、実用的な本、両方集めて、住民の仕事と生活と地域の文化の発展に役立つ図書館にすることが基本だと思ふ。ただそれを誰も言わない。言うともものすごく何か言われるから。北広島や北海道では住民と一緒に本を集めに行っており、東京でもやろうということ、ある大学の教授は「いいことだ」と言った。すると関西の偉い先生方や市民の図書館やグループから酷く叩かれた。だがそれはおかしい。やはり図書館は市民の生活、地域に根ざしたものであるから、きちっとした価値観を持って本を収集し、高価なものでも役立つものは集めるんだということが図書館の発展に繋がる。新図書館を作る際にはきちっと考えていただきたい。

委員：目玉に稀覯本を持ってきて飾るという発想は無い。委員がおっしゃるように昭島市の地域に根ざしたかたちであれば、そこからスタートで構わないが、広がって、ここへ行けば全部調べることができる、そのような図書館になるといいと思ふ。

事務局：新図書館の特色の一つは郷土資料室と一緒にいうところがある。書き込みをするかということとはともかく、郷土資料室と一緒に意味というのは地域資料、郷土資料室の資料も含め、今までとは違った資料の使い方ができるのではないかというのがあり、そのあたりも含め検討してまいりたい。

(4) 図書館見学ツアーの実施について

事務局：11月2日に実施する。場所は江戸川区立篠崎子ども図書館。集合場所は昭島市役所西側駐車場。正午に出発する。10月下旬に出席欠席の確認をさせていただく。視察の目的は、本年度、第三次昭島市子ども読書活動推進計画を策定するので、日本では珍しい子ども専門の篠崎子ども図書館に行くことと、子ども図書館に近い場所に、おとな専門の図書館で受付の一部をロボットが代行している篠崎図書館に行くことである。ちなみに2館の館長は大串委員の教え子で、29才で図書館長になった吉井潤さんである。以上。

5 その他

事務局：次回の予定と議事録のHPで公表することについての確認。